

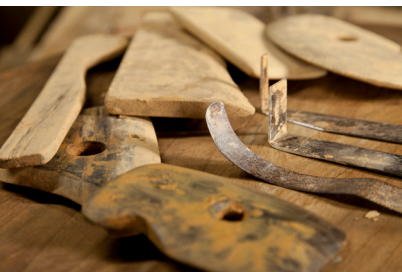
## マルワ窯



手間を惜しまない真心を込めた物作りを信条にロクロに向かう太田富隆窯。壺や大皿などの大物得意とする一方で、アメリカ修行で習得した日常で使える器など、伝統を守りながらも、常に新しいモノづくりに挑戦。自然な稲穂を束ねて作る藁刷毛という技法を使い模様を付け、現代的な色合いとマッチングするよう作りました。



飯碗 各色 8,000円



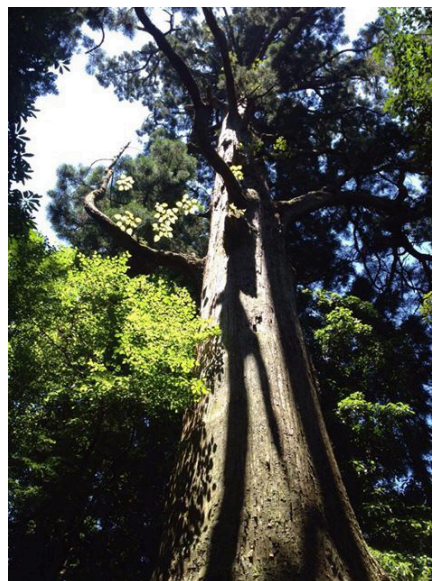
飛び鉋、櫛目等、小石原焼の特徴ある模様を生み出す道具

伝統技法を活かしながら、現代のライフスタイルに程よく溶け込む生活の中の器を提案。そのデザインは、シンプルながら、ひとつひとつがとてもあたたかく、和洋問わず使え、毎日使いたくなる魅力を持っています。マット素材に小石原焼の伝統技法の一つである櫛目を施して美しいデザインに仕上げました。



櫛目鉢 大 8,000円 / 中 5,000円 / 小 2,500円 (表紙と同商品)

## 鶴見窯



行者杉の中でも「大王杉」と名付けられた巨木は、幹回り約8.3m、樹高約55mあり、林野庁の「森の巨人たち百選」に選定されています。

福岡県朝倉郡東峰村は、標高500メートル、高原の小盆地に位置するこの地で小石原焼と高取焼は誕生したといわれています。日用雑器の道を歩みながら「用の美」を確立した小石原焼と、「綺麗さび」と表現される遠州七窯の風格を今に伝える高取焼。小石原焼が今日のような評価を得るに至ったのは、この二つの焼き物「民陶小石原」と「茶陶高取焼」の調和のとれた共存の賜物です。水田が広がり四季折々の美しい自然に囲まれた、冬は薪ストーブが欠かせないほど雪深いこの山里に、民芸運動の牽引者である柳宗悦、バーナード・リーチが来村したことで小石原の名は一躍有名となりました。民芸運動が活発化したことで小石原焼は再発見され「用の美」の民芸陶器として広く受け入れられ、一方の高取焼も陶器でありながらも磁器のような薄さと軽さ、華麗な釉薬で気品に満ちあふれた茶陶の歴史を紡いでいます。



福岡県東峰村

## 半農半陶を実践する民陶の里